

法音寺の重要文化財修理が完成しました

法音寺は、有田川町岩野河にあり、行基によって創建されたと伝わる古刹こしゃです。昨年4月から法音寺に伝来する重要文化財の阿弥陀如来坐像あみだにょらいざざうと十一面観音立像について保存修理を実施してきましたが、このほど完成し、去る2月27日に奈良国立博物館内の修理所から法音寺へ返却されました。これらの仏像は、昭和6年（1931年）に修復が行われていましたが、今回85年ぶりの修理となりました。

阿弥陀如来坐像は法音寺の本尊であり、平安時代後期の作です。修理前は表面の漆箔しつぱくが浮き上がり、また後世の修理時に施されていた金泥きんでいが長い年月の中で汚れ、黒ずんでいました。今回の修理では漆箔の剥落止めを行うとともに、後世の金泥を除去しました。その結果、当初の金箔が非常に良く残っていることが明らかになり、仏像が造られた当初（約800年前）の姿に近付けることができました。また耳や鼻先なども破損がなく、当初のまま残されていることも明らかとなり、改

めてその重要性を再認識することができました。

十一面観音立像は平安時代前期の作で、有田川中上流域では最も古い仏像の一つです。修理前は仏像の表面に数多くの虫穴が見られ、損傷が進行していました。今回の修理では主に虫穴を丁寧ていねいに樹脂で埋め、仏像を補強する作業を行いました。

文化財の多くは修理が繰り返され、今日へと引き継がれています。今回地域の方々の理解と努力によって修理が行われたことにより、仏像とともに地域の歴史を次世代へと引き継ぐことが可能となりました。



阿弥陀如来坐像 修理前（右）と修理後（左）



十一面観音立像足先 修理前（右）と修理後（左）